

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【研修編⑦】

書 写（受講者 76 名）

講 師： 長野 秀章

実施日： 平成 22 年 7 月 27 日(火)

=====

- 目 的：・新学習指導要領に基づき、学校教育現場で直ぐに役立つ書写の指導を学ぶ。
・国語教科において、わが国の言語文化に親しむ態度を育て、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりするための内容を理解する。

■期待される効果：

- ・新学習指導要領改訂事項を理解し、書写の授業を科学的に展開する方法を学ぶ。
- ・教師は書のプロでなくていい、書写の授業という地図を進むナビゲーターに徹する立場を知る。
- ・漢字の一筆と一筆の「接し方」「角度の違い」を理解し、文字の秩序化を知る。
- ・基本となる点画である「とめ」「はね」「はらい」「はらいとめ」「おれ」「まがり」「そり」の筆使い（硬筆、毛筆ともに）ができるようになる。（字種により筆遣いが違うことも理解すること）

■準備教材・設備等：

硯、筆、墨、半紙、文鎮、OHP

■研修の流れ（@6 時間×1 日）

「新学習指導要領」についての話

↓

漢字の「接し方」「角度の違い」の解説と演習

↓

「書写を科学的に捉える」の解説

↓

基本となる点画の解説と演習

↓

毛筆の筆使い（面の使い方）の解説と半紙の使い方

↓

授業指導案における参考資料の解説

■Advice points

- ・生涯において、硬筆でも毛筆でも、基本となる点画が書けるようになるための「書写」と捉え、字のイメージを子どもたちに持たせることによって、文字への興味がひろがる。

■講師の感想（要約）

学校教育現場にスグに役立つような指導内容とした。特に毛筆の技能が苦手と思われる教員に対しての指導の充実を図った。受講者の習得度はかなり高かったと思われる。また、小・中学校の国語科書写を科学的に指導し、理解が得られたと思う。会場の天井が低かったので、後方まで提示したものが見づらかったのではないかなと思う。今後、開催する場合、100人を超えても指導できるような会場準備をお願いしたい。

■受講者の感想（抜粋・要約）

- ・ 中学書写と高校芸術書道の違いや意味などを知り、勉強になった。
- ・ 文字の「おれ」の角度などの法則を学び、書写も理論的に指導できることを始めて知った。
- ・ フェルトペンまたは鉛筆の指導の仕方、また「書写」授業の事例紹介もあればよかった。
- ・ 文字の筋の通ったきまりや、点や部品の集めた文字が漢字だということなど、改めてわかった。
- ・ 日頃「何となく」で書いてしまっていることに気付いた。指導書等にな書かれていない理論を学べた。
- ・ 理論的に書写を見つめることができ、とても新鮮だった。
- ・ 子どもたちにかわりを書いてもらうということを発見した。
- ・ 伝統・文化を指導するためには基礎的基本的な知識が必要。広く多くの分野の知識を持ちたい。
- ・ 技術の高い教員でなくても基本の点画がかかるのであればよい、「書写を科学する」など学んだ。
- ・ 日と口や横画からの筆づかいなど勉強になった。

